

愛の心

社会福祉法人 全電通近畿社会福祉事業団

2021年新春のごあいさつ

- ◆ 理事長
- ◆ 愛の家 施設長
- ◆ あいハート須磨 施設長
- ◆ あいハート離宮前 施設長

【愛の家】

- ◆ きぼう
- ◆ かがやき
- ◆ 工房みさき
- ◆ グループホーム
- ◆ みらい

【あいハート須磨・離宮前】

- ◆ 特養・短期入所
- ◆ 須磨デイサービス
- ◆ 居宅介護支援事業所
- ◆ あんしんすこやかセンター
- ◆ 厨房
- ◆ 脳梗塞リハビリステーション神戸須磨
- ◆ あいハート離宮前

愛の家
利用者さんの作品



あいハート離宮前
利用者さんの作品



須磨デイサービス
利用者さんの作品



250号

2021 January



理事長
嶋本 佳和



たと聞ききました。また何もないところから事業団を設立する「生みの苦しみ」は尋常な苦労ではなく、物凄いエネルギーが必要であったと聞きました。私も現在事業団理事長として

新年明けましておめでとうございます。平素は事業団に対しまして、多大なご支援・ご協力をいただきありがとうございます。と心から感謝申し上げます。

理事長に就任させていただき4年目の新春を迎えることになりました。本年も先輩から引き継いだ事業団の発展・継承、ならびに福祉サービスの向上に全力で取り組む所存でございます。

さて、事業団を取り巻く状況はここ数年厳しい環境におかれています。2020年度の間決算の結果、赤字運営となりました。介護報酬改正の影響を受け、大変厳しい状況ではありますが職員同と連携を図りこの難局を乗り越えていきたいと思っております。

このような状況の中、本年1月に事業団は50周年を迎えます。始まりはNTT労組の前身である全電通近畿地方本部が職場集会の折、組合員から子供が障がい者であること、また自分が亡くなった後、その子供の心配などが訴えられたため、定期大会で身障児収容施設設立を決定し組合員カンパにより1971年に事業団を設立しました。なお当時の組織人員から障がい者発生率を勘案すると約160人が対象となり、これは組合員の大きな課題であることから決断したとのことでした。

この間の50年は順風満帆に推移したわけではありません。とりわけ設立当時のカンパ活動は組合役員が相当苦労し

して事業団収入の減少、須磨における土地無償提供期間の終了、ならびに職員不足など様々な課題を抱えて運営を行なっています。

しかし設立当時における諸先輩の苦労に比べれば大したことではないと思えます。したがって今後とも福祉サービスの継続、地域住民に愛されている福祉施設として、次なる50周年に向けて引き続きのご支援をお願い申し上げます。事業団は本年1月に50周年記念式典を開催予定でしたが、昨年11月より発生している新型コロナウイルスの第3波感染拡大により延期しコロナ禍への対応を万全に収束状況時に開催させていただくことにしました。

引き続き、大きな収入源の一部であります情報労連・NTT労組後援会活動をはじめとする個人・他団体等からの寄付金や地域における住民、行政、学校、福祉委員ならびに民生委員の皆さまのご理解、ご支援をお願いいたします。

合わせてあいハート須磨の増床が神戸市から認可されましたので建設支援として「カンパ」に取り組むことになりました。関係各位には大変お世話になりました。結びに日頃の感謝を申し上げます。

結ぶに日頃の感謝を申し上げますとともに2021年は皆様にとって幸多き1年になりますようご祈念申し上げます。頭のご挨拶といたします。



愛の家 施設長
川口 和寛



が振る舞われるなど、例年以上に豪華なものとなりました。さて、今年は事業団も愛の家50周年を迎える記念すべき年であります。

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は皆様も感じられているとおり、「コロナ」に始まりコロナで終わった年でありましたが、保護者の皆様をはじめとする多くの方々のご理解とご支援により、無事に新年を迎えることができましたこと、心より御礼申し上げます。

昨年の年頭挨拶では、前年、施設のイベントがほとんど開催することができず、年末になってようやく恒例の「餅つき大会」ができたことをお伝えし、「今年こそは！」という願いを書かせていただきましたが、その願いは叶いませんでした。

外出や帰宅制限が続く中、夏はスイカ割り、10月は利用者さんのストレス発散と運動不足を解消しようと、密にならない工夫をして、職員と入所の利用者さんのみでのミニ運動会を開催しました。

クリスマスはイベントこそできなかつたものの、保護者会やNTT労働組合のご協力により、お菓子のプレゼントに加え、24日・25日と連続でケーキ

愛の家では4月に「地域の皆様とのふれあいと感謝」ということで、記念のイベントを予定しております。

しかしながら現在、新型コロナウイルスは第3波の真只中であり、この先どういった展開になるかは誰も予想できません。

愛の家では利用者さんの安全を第一に考え、経営面では厳しくなりますが、日中一時及び短期入所等の受け入れ停止、そして保護者や利用者さんにはご迷惑をおかけしますが、面会及び外出等の制限をさせていただくなど、引き続き感染防止に向けた措置を行って参ります。

「今年こそ！」の思いは例年以上に強くありますが、まずは万が一の場合においても施設内で拡大させないよう、しっかりと日々注意を怠らないように努めて参ります。

今までのように多くの皆様が施設に来て下さり、にぎやかで楽しい日々が訪れることを待ちながら、今年も職員一同努力して参ります。

一日も早いコロナの終息と皆様のご健康とご多幸を心より祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



あいハート須磨
施設長
森本 光弘



一つ目は、当法人初の「収益事業」となる「脳梗塞リハビリステーション 神戸須磨」のオープンです。新型コロナウイルスの感染拡大によって、十

新年明けましておめでとうございます。旧年中はあいハート須磨の事業運営に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。新型コロナウイルスの感染防止に向けて緊張状態が継続しているところではありますが、昨年は嬉しい出来事が三つありました。

一つは、かねてより推進してきた増床計画案が、神戸市に採択されたということ。非常に厳しい収支状況を改善するためには不可欠の計画であるため、採択の通知をいただいた時は非常に安堵しました。

設計会社の選定や実施設計、設計審査を経て、現在、施工会社選定の入札に向けた対応を進めているところです。予定通り進捗すれば、一月末に着工、年末には増築部分(別棟)が竣工することになります。別棟の竣工後は、多床室のプライバシー改修やデイサービスの大規模改修を実施しますので、利用者やご家族の皆さまには感染防止の取り組みに加え、増築や改修工事に伴う騒音等についてもご理解をいただかなければなりません。設計・施工会社の方々と協力しながら、影響を最小限にできるよう対応したいと考えています。

分な営業活動ができずに厳しい状況が続いていますが、単月黒字を達成した月もあり、事業継続への兆しが見えつつあります。

最後の一つは、「地域サポート施設」として兵庫県知事の認定を受けたことです。これは、神戸市からの受託事業である「西須磨あんしんすこやかセンター」の職員が、地域住民主体の活動をサポートしてきたことで実現しました。認定の継続に向けて、今後も取り組んでまいりたいと思います。

本年も変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様にとつて、幸多き年となりますよう、心からお祈り申し上げます。ご挨拶いたします。



あいハート離宮前
施設長
古崎 徹



単なる流行(はや)りではなく、時代とともに変わる価値や基準、ニーズに対応していくことであり、この両輪が時流の迂曲に沿うよう正しく機能してこそ

新年明けましておめでとうございます。全電通近畿の組合員様からの「愛のカンパ」により産声を上げました当法人は、本年50周年の記念すべき節目を迎えます。これも偏にご利用者様や地域の皆様、N.T.T労働やグループ各社様のご支援によるものと心より感謝申し上げます。

さて、帝国データバンクによりまして、我が国で創業百年を超える会社はわずかに2%であり、思い起こせば保険会社や銀行、証券会社に世を風靡した信販会社、全国展開の百貨店やスーパー、航空会社まで、業界で最大手とされた企業が姿を消したり法的な再生に及ぶなど、事業の永続がいかに障礙や困難に満ちたものかを我々は目の当たりにして参りました。

そこで当法人では次の50年に向けて、発展する組織、成長する職員であり続けるために、新たにビジョンを策定したのですが、私はこのビジョンを「不易流行」の精神で実現していきたいと考えています。

「不易」とは組織の「コア」となる失ってはならない本質であり、法人の理念に通ずるのだと思います。一方「流行」とは

脱輪することなく企業は永く存続できるのだと思います。

当法人では昨年中に持続可能な賃金制度への変革や新人事考課制度の導入を、当ホームではサービスに対する職員の意識改革や、見守りシステム、ノーリフトケアなど新しい介護イノベーションの導入による安心・安全のベースアップを目指して参りましたが、今後もこのような変革をスピード感をもって実行して参ります。

昨年は世界的な規模の禍に見舞われ、ご利用者様には何かとご不便やご不自由をお掛けした年となりましたが、新しき年がワクチンの開発などによって元の穏やかな世の中になりますことを祈念しますとともに、感染防止への一層の取り組みに努めて参りますので、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、皆様方ますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



愛の家



きぼう

◆ 主任 鳴神 明美

新年明けましておめでとうございます。昨年、当施設に対しまして多大なるご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

さて、世界中がコロナと闘う中で日本も翻弄され、施設の子ども達も無縁ではなく大変な年となりました。

子ども達の心身の健康や教育等様々な面で影響があり心配する中、子ども達は感染症について知り・学び、自分達ができることから取り組んでくれました。そんな子ども達の姿に私達支援者も改めて使命感が湧きました。

また、新型コロナウイルスが確認されるなど今も尚世界中で蔓延している現状



では、長期戦を覚悟しなければなりません。感染防止に努めつつ、創意工夫を重ね、新しい生活様式の中で子ども達の健全な成長を願い支援したいと思っております。

今年こそは、オリンピックイヤーとなり、より良い年であるように期待に胸を膨らませるとともに活力ある年になるよう、職員一同邁進して参りたいと思っております。

皆様方のご健康とご多幸を心より祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

かがやき

◆ 部門長 渡會 幸喜

新年明けましておめでとうございます。皆様には、健やかに新春を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

昨年より、新型コロナウイルスのさまざまな影響を受けるなか、職場や私生活でも急激な生活スタイルの変更となりました。

施設の方針としても外泊や外出、面会までも制限するなど苦渋の決断が続いています。

また、早い段階より発熱者や少しでも疑いがある症状がみられた方には、必要に応じて防護服を着用し支援にあたるなど徹底した対応策がとられました。利用者さんの中には、納得が得られず不安を抱えたまま、外出の訴えを続ける方もおられます。

しかし、暗い話題ばかりではありません。

かがやき部署として、時期をみながらになりましたが、新規入所候補者の体験利用や、毎月の全体会議開催など部門実行計画の達成に向けて、しっかりと取り組む事が出来ました。



新型コロナウイルス感染症の終息を願うとともに、4月からの新たな事業年度に笑顔で繋げられるよう、そして利用者さんの笑顔を少しでも引き出せるように職員一同気を緩めずに邁進してまいります。本年も何卒よろしくお祈り申し上げます。

工房みさき

◆ 部門長 山本 裕之

新年明けましておめでとうございます。さて、昨年は工房みさきにとって、大きな変革の年となりました。

3月末で就労移行サービスを廃止し、4月から新たに生活介護サービス(定員



10名を開設し、就労継続支援B型サービス(定員25名)との多機能型事業所として、新たなスタートを切りました。生活介護サービスの利用者さんについては、当初新しい環境に順応できるかな不安もありましたが、大きな混乱や問題もなくサービスの提供ができています。現場スタッフの方々には本当に感謝しています。

また、利用されている全ての利用者さん、保護者の皆様、各関係機関の皆様方におかれましては、事業変更に伴う様々な事柄において、ご理解・ご協力いただいていること、誠にありがとうございます。

コロナ禍による我慢の日々が続いています。スタッフが、感謝の気持ちを胸に、今年も笑顔で頑張っていく所存です。

本年も変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

2021年が皆様にとって幸多き年となりますよう心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

グループホーム

◆ 主任 山口 真吾

新年明けましておめでとうございます。

2020年は新型コロナウイルスが猛威を振るい、緊急事態宣言の発出、外出自粛やイベントの中止などに伴う実態経済の落ち込み、東京五輪の1年延期、マスク着用が当たり前になるなどこれまでの生活が大きく変化した1年となりました。



残念ながら新年を迎えてもなお第3波といわれる感染の再拡大は収まる様子はなく、都市部の医療体制の逼迫が伝えられるなど、かつて

の日常を取り戻すには、まだまだ長い期間が必要だと思われる状況です。

感染症の対策は、ワフチンができるまでは「隔離」が基本ではありませんが、新型コロナウイルスは感染しても無症状の人も多く、潜伏期間中にも強い感染力を持つているため、感染が中々収束に向かっていかない要因となっています。

世界中で大変な状況となっている中、グループホームの利用者さんも皆さんと同様に、マスクの着用、手洗い、うがい、毎日の検温など、感染予防に努めてくれています。

今年は感染予防に万全を期しながら、事態が収束していく、そんな1年になって欲しいと願っています。

今年もどうぞよろしくお祈りします。

みらい

◆リーダー 片岡 正年

新年明けましておめでとうございます。旧年中は格別のお引き立てを賜り心より御礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の収束を願うとともに、本年も何卒よろしくお祈

い申し上げます。

愛の家「みらい」は昨年と変わらず、片岡と田中の2名体制で頑張っています。

昨年のおの家「みらい」は、行動がかなり制限された一年でしたが、利用者さんにとってより良い生活が送れるようにサポートしていく事に変わりはありません。これからも『利用者ファースト』を合言葉に取り組んでいきたいと思

ます。私自身の目標は常に勉強をしていく意識を持ち、色々な経験を積む。そしてもっと利用者さんや事業所さんにアドバイスしていきたいと思

います。また、利用者さん・事業所さん双方から「相談してよかった」と云われるような相談員になるように頑張っていきたいと思

います。愛の家「みらい」事務所は、愛の家の最寄り駅である南海淡輪駅近くのハイツの3階にあります。



電車の音は少しうるさいですが、窓から見える景色はいつも私たちを癒してくれています。これから心にもゆとりを持ち、安心感を与えられる対応を心掛けていきます。

あいハート須磨・離宮前

特養・短期入所

◆部門長 原田 浩樹

『あたりまえをありがとうに』
新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。



昨年は新型コロナウイルスが世界中に感染拡大しコロナ禍一色の一年だったと思

りました。今まで、当たり前だと思っていたことが出来なくなっています。当たり前とはあることが常のもの。その対義語は、あることが常でない。「あることが難しいもの」「有り難きもの(ありがたい)」です。あることが難しい、まれであること。すなわち奇跡ということになります。

私達は今まで当たり前だと思っていた出来事、例えば、誰かと食事が出来たり、笑い、笑って話しかけてあたりまえ、家族と会えるのがあたりまえ、手を握れることがあたりまえ、隣にいたり、あたりまえ、そして生きていくことがあたりまえ。現在のコロナ禍において、このように当たり前と感じている出来事が実は奇跡の連続だということを感じました。

当たり前前に出来なくなったことを不憫に感じるのではなく、出来たことに「ありがとう」という感謝の気持ちを持つて入居者の皆様に接していきたいと思

須磨デイサービス

◆部門長 仙波 剛

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈り致します。

さて、昨年は新型コロナウイルスの猛威に日々緊張する毎日でした。感染者を出さない為に、感染予防対策を徹底し、プログラムの見直し等も行いました。稼働率や収支にも大きな影響が出ており、このような状況は、まだまだ続くと思

れます。

新型コロナウイルスの終息が見えない中では、感染予防対策を徹底し、いかにご利用者やご家族から安心してご利用していただけるかが課題です。

また、事業運営の面では、介護報酬改定の年でもあります。事業を安定的に継続する為には、報酬改定の内容を意識して、可能な限り加算を算定できるように、更なる努力が求められます。現在、取り組んでいるサービス品質の向上を推進する事で、収入・稼働率の最大化を目指します。

職場環境においては、ノーリフトケアの推進に努めていきます。プロジェクトチームを中心に、ノーリフトケアに関する部門内研修やリフト等の導入・ケアの見直しなどを行い、腰痛予防の取り組みを加速させてまいります。

本年も、デイサービス運営の「安定」と「継続」の二つを重点項目とし、スタッフ一同、日々取り組んでまいります。



居宅介護支援事業所



◆部門長 丸島 幸子
今年介護報酬改定の年です。ICT活用による、業務の改善・ケアマネジメントの質の向上を図りたいと思います。

◆主任 菅家 妙子
恵まれた職場環境に感謝しながら、家では四季折々のスローライフを楽しみたいと思います。

◆今城 ゆり
昨年は情報で溢れた一年でした。今年は、メディア、ネットで流される情報の裏も考え真実を知る力を養いたいです。

◆余田 恵
「よく寝て良く食べ良く学ぶ」。健康に気を付けて、いろんなことを学んでいきたいと思っています。

◆橋本 裕弥
何気ない日常にも今後楽しみを感じながら1年間を過ごしていけたらと思います。

◆浪江 知永子
気心の知れた仲間と働き続けられる体作りを目指して歩数計の数値向上に努めます。

◆松井 栄子
健康に留意し、楽しみながら、仕事・運動等を継続でき、充実した一年になるように努めます。今年は試合頑張ります。

◆稲田 仁美
当たり前にできていた事に感謝。気持ち常に向き、自分の歩幅で、進んでいきたいです。

あんしんすまやかセンター



◆部門長 柏木 照子
信頼されるセンターを目指し、笑顔と感謝、一期一会、繋がりを大切にしながらいきます。

◆主任 日和佐 祐樹
初心にかえり、一つ一つのことに対して丁寧に取り組んでいきたいと思っています。

◆中井 幸子
幾つになっても人生のスタートは切れる。私にはまだ叶えたい未来がある。心の声のまま新しい一歩を踏み出します。

◆大道 雅子
人と人とのつながりや出会い、一日一日を大切に過ごしていきたいと思っています。

◆小原 みゆき
人が持っている力を発揮でき、人と人が繋がるよう、日々精進します。

◆田中 正宣
来年にはコロナも収束していることをイメージして、新たな気分で頑張りたいと思います。

◆藤井 幸代
日々感謝と反省を繰り返しながら、沢山の縁がより良いものになるように頑張ります。

◆平池 方子
日常生活で免疫力を上げられるように、笑顔で過ごす心がけたいです。

◆太田 一葉
一日一日新たな気持ちで取り組む、悔いの無い一年にしたいと思います。

◆森元 淳子
米麹、ポリフェノール、えごま油、ウオーキング…免疫力アップを心がけていきたいです。

◆水原 寛子
「コロナ感染が落ち着き、イベントが開催できる様、願いながら日々頑張りたいと思います。」

厨房

◆部門長 澤田 州子
新年明けましておめでとうございます。昨年はコロナ禍で、例年行われていた行事が中止や縮小になりましたが、日々の食事や行事食は通常通りお出しでき、ほっとしています。

元日のおせち料理には無病息災を願い、丹波産の黒豆や海老の紫蘇巻き天ぷらなどをご用意しました。また、月ごとに季節の料理を予定しております。

今年の厨房の抱負は「成長」です。皆様の健康を守る為、栄養のある美味しい食事を毎日提供できるように知識と技術を磨き、日々成長していきたいと思っております。また、私自身も新しいことにどんどんチャレンジし、自分自身を成長させて、自らが引っ張っていけるような存在になれるよう頑張ります。厨房一同、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



脳梗塞リハビリテーション 神戸須磨

◆ センター長 伊藤 正憲

新年明けましておめでとうございます。昨年2月8日に開設した当センターでは、脳卒中の後遺症でお悩みの方々に、改善にこだわったリハビリを提供してまいりました。

開設当初は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、ご利用者さまの獲得に難渋いたしました。営業方針を切り替え、当センターの強みを幅広くアウトプットし、最近では問合せや体験プログラムのご利用者も増えつつあります。リハビリテーションには science



(サイエンスと art (アート) の世界があると感じています。身体機能を的確に評価し、学術的根拠に基づいて理論的に説明するのがサイエンス。これまでの経験に基づいて、そのバリエーションの中から独創的な治療を展開するのがアート。今年の当センターは「成長」を目指します。サイエントフィックにアーティスティックに、2名の理学療法士の力をブレンドしてまいります。これからも、当センターの運営が軌道に乗るよう邁進する所存です。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

あいハート 離宮前

◆ 部門長 宇根 知英

WILL・CAN・MUST (令和二年)

新年明けましておめでとうございます。令和二年は新型コロナウイルスの拡大により、社会情勢を取り巻く環境が変化したことをご承知のことかと思えます。当ホームにおいても、ご入居者・ご家族の皆様方には大変ご不便をお掛けしている次第でございます。令和二年は感染防止の取り組みの一環から、集団で

の活動(アクティビティ)を中止せざるを得ない状況をどのように克服していくのか、CAN(できること)を模索し、フロアごとのアクティビティ(各種体操プログラム・音楽鑑賞 映画鑑賞 カレンダー作り)、第3四半期からは(書道・ペーパークラフト)のプログラムを追加することができました。また、規模の大きなイベント(納涼祭 秋のドライブ外出・クリスマス会)は複数日の期間を設けて開催して参りました。これらの努力に対してはお客様の声や感謝の声を頂戴しているところです。しかしながら、前述の「CAN」に加え、WILL(やりたいこと)、MUST(やらなければならないこと)これらの3つの輪が重なり合う部分を具現化し、仲間(職員)たちと共有し、実現に向かって努力していくことが重要だと考えています。

「あいハート 離宮前で良かった。」と思つて頂けますようにこの先も奮励努力してまいります。



ご支援をくださった方々

11月

◆ 寄付金

NTT労働組合 関西総支部
大阪南分会様

◆ 寄贈品

岡本 真由美様
ダスキン様

(計3件)

12月

◆ 寄付金

大西 一只様

NTT労働組合 西日本本部様

大阪キリスト教短期大学様

遠山 建樹様

美谷 恵津子様

斉藤 文字様

エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)

地域事業本部 西日本支店様

◆ 後援会費

NTT労働組合 西日本本部様

NTT労働組合

持株グループ本部

コムウェア西日本分会様

NTT労働組合

持株グループ本部

NTTファイナンス関西分会様

◆ 寄贈品

ダスキン様

斉藤 文字様

(計12件)



【今号は改善事例をご紹介します】

2020年2月8日に開設した脳梗塞リハビリステーション神戸須磨は、開設から間もなく1年を迎えようとしております。「後遺症の改善を諦めたくない」、そのような思いをお持ちの方々に、改善にごだったリハビリを提供してまいりました。今号では、当センターの改善事例をご紹介します。

今回紹介する症例は、2019年12月に脳梗塞(右大脳心原性脳塞栓)を発症し、急性期病院で開頭減圧術を受けられた60歳代の女性です。発症から47日後に回復期リハビリテーション病棟を有する病院へ転院されました。回復期病院では歩行の自立を目指してリハビリに専念されましたが、国が定める入院期間の上限(入院から180日)に至り、車いすレベルで自宅に退院されました。退院後も、「歩けるようになりたい」という希望を諦められず、介護保険のリハビリサービスでは後遺症の改善は難しいだろうとの思いで、当センターにリハビリ相談にいられました。

相談にいられた日の歩行(掲載写真:上段)は、麻痺している左足に両側金属支柱付短下肢装具を装着しておられました。左足を前に振り出そうとすると、上半身(体幹)が後ろに大きく傾いていました。体重を支えている右足も膝が曲がってしまい、後ろにいるセラピストにもたれなければバランスを崩して転倒してしまう状態でした。足だけでなく腕や手、体幹の後遺症の状態を評価したうえで、改善見込みとリハビリ方針をお伝えしました。装具を外して歩けるようになることを目標に、当センターのメインプランである「短期改善リハビリ」を開始しました。

本症例の麻痺を改善させるために実施したオーダーメイドのリハビリをいくつか紹介させていただきます。写真①:仰向けで身体がリラックスできる体勢を取り、頭を支えて首から刺激を入れることで麻痺により緊張の高くなった筋肉を緩めました。写真②:麻痺している左腕と左手をゆっくりと動かし、筋肉をうまく動かすことができるように調整しました。写真③:2名のセラピストでハンドリングをおこない、ベッドから立ち上がるときに麻痺した足で体重を支えられるように動作練習を反復しました。写真④:鏡で自身の身体の状態を目で確認していただきながら、麻痺した左足で体重を支えて右足を持ち上げる練習をおこないました。写真⑤:緊張が低くなっているお腹の筋肉の収縮を促しながら、麻痺した左足に体重を移動して右足を前に振り出す練習をおこないました。写真⑥:歩行の自立に向け、杖を使って歩く練習にも取り組みました。

「短期改善リハビリ」を開始してから4週間で歩行能力が改善しました(掲載写真:下段)。装具を外して歩くことができようになり、歩行スピードも向上しました。つま先を動かして、つま先で床を蹴って左足を前に振り出せるようになりました。つま先が離れたあとも上半身が後ろに傾くことはなく、まっすぐに前を見て左足を大きく前に振り出せています。本症例の歩行の改善をYouTubeで動画配信しています。誌面に掲載したQRコードを読み取っていただき、ぜひご覧ください。

最後に、本症例のご利用者がアンケートに記載して下さったコメントを紹介いたします。

(ご本人様)前よりも左足が軽く振り出せるようになり、「歩けるようになる」と希望を持ってました。

(ご主人様)入院中は装具をつけて歩く練習だけであった。今は装具を外せたことに本人が喜び、前向きな気持ちでリハビリを続けることができています。

本症例のご利用者は現在も当センターでのリハビリを継続し、さらなる後遺症の改善に取り組んでおられます。



改善事例の紹介(麻痺のある左足の振り出し)



リハビリ相談にいられた日

【短期改善リハビリ】を開始してから4週間後

麻痺を改善させるためのオーダーメイドのリハビリ



当センターでは、現在、特別体験プログラムを実施中です。このプログラムでは60日間の「短期改善リハビリ」による後遺症の改善見込みをお伝えします。愛&ハートを見てご予約いただくと、初回、通常5,000円+税のところを無料でご招待いたします。ぜひこの機会に、特別体験プログラムをお受けいただき、後遺症の改善を目指しましょう。



センター長 伊藤 正憲

理学療法士(2002年国家資格取得)・神戸大学大学院卒(保健学博士)回復期病院でさまざまな症状の脳卒中後遺症リハビリを経験。その後、理学療法士養成校で副学科長を務め、学生教育と研究活動に従事。学会発表や論文・書籍の執筆も多数。脳梗塞後遺症に特化した自費リハビリ施設の開設準備を機に当法人に入職。「脳梗塞リハビリステーション神戸須磨」の新規開設と同時にセンター長に就任。専門は、脳卒中をはじめとする中枢神経疾患に対するリハビリテーション。

「皆様の声」受付窓口

全電通近畿社会福祉事業団では、社会福祉法第82条の規定に基づき、利用者家族の皆様等から「苦情」やご意見に適切にお応えするための体制をとっています。面接・電話・書面等のようなかたちでも結構ですので、遠慮なく、お気軽にお申し出ください。

- 愛の家 072-494-0123
- あいハート須磨 078-737-2525
- あいハート離宮前 078-731-2130
- 法人本部 06-6458-5723

【発行】

社会福祉法人 全電通近畿社会福祉事業団
〒553-0003 大阪市福島区福島 3-1-73
TEL 06-6458-5723

Website <http://zendentu-kinki.jp>
Facebook <http://www.facebook.com/zendentukinki>
E-mail jigyodan@silver.ocn.ne.jp

【発行人】

理事長 嶋本 佳和

